

説明会内容

-
- 名 称 3・3・8号宮ノ下公園の都市計画変更に係る説明会
 - 日 時 2013年9月4日(水) 19:00~20:00
 - 場 所 村岡公民館 1階 学習室
 - 参加者 10名
 - 趣 旨
-

宮ノ下公園の都市計画変更手続きとして、地元向けの都市計画説明会を開催したもの。

■主な内容

(アルファベット：参加者 市：藤沢市)

A 従来、公園の地表面に雨水が貯まる計画であったが、今回、公園の地表面ではなく、地下に雨水が貯まる計画になるとのことで、公園の機能が格段に向上すると認識している。地表面が使えるようになるため、防災面（トイレを兼ねたベンチの設置等）に配慮した理想的な公園にしていきたい。

①このようななか、公園の地表面に雨水が貯まらないことにより、どのように利用価値が向上するのか。②また、調整池に関する予算規模は。

市 ①市内に大庭遊水地という引地川沿いの広場があるのだが、そこは河川が氾濫した場合、直接、河川の水が流入してくるため、水がひいた後は、ヘドロや流木、ゴミなど、後片付けが非常に大変であると聞いている。地下式にすることで、地下のフィルターで大きな異物をキャッチするので、このような問題が生じないと考え。このようなことから、公園の施設計画は良いものができる。また、ヘドロ等が流入しないことによる衛生面の向上ということもいえる。

ただし、地下式にすることにより、プラスチック製の調整池の上には堅固な建物は建てられなくなるので、そういった建物を公園内に建てる場合は、調整池以外の場所に設置する必要がある（通常の公園施設は問題ない）。実際の公園整備は平成28年度からとなるので、その前にワークショップの周知等を公園部局からさせていただくことになる。

②掘割式にすると、公園を利用する場合、かなり長いスロープで下まで下りていかなくてはならない。こういったことから地下式にすることで公園機能は格段に向上すると考える。また、現在の谷戸地形を生かした公園利用ができる。事業費は試算の段階だが、約25億円程度を見込んでいる。

B 遊水池に泥水が入ってくるかと思うが、泥で詰まってしまう、20~30年で機能しなくなるのではないか。

市 雨水が流入するため、どうしても泥も一緒に引っ張ってしまう。泥水が調整池の躯体に流入しないよう、フィルター層を設置し、そこで大きなゴミ等をキャッチできる構造を考えている。また、躯体のなかには、管理用の人が通行できるほどのコンクリート製のBOXカルバートを設置し、フィルターでキャッチできなかった泥はそこに貯まり、清掃を行うことになる。BOXカルバートには小窓を設置し、高圧噴射で調整池の維持・管理ができる構造を考えている。

市 雨量の状況を鑑みながら、フィルター層は1~2年、オリフィス（沈砂地）については、数年に1度、定期的な清掃を行うことを考えている。

C ①雨水は全部で何t貯まる計画になるのか。②1時間当たりの雨量の目安は。

市 ①貯水量については、約30,000m³の雨水を貯留するもので、小学校のプールでいうと、約80杯分になる。②最終的にここで貯めた雨水は境川に流すことになるが、境川は総合治水対策という考えをもっており、河川だけではなく、大規模開発地の調整池などと協力しながら、雨水の流出を抑制していくというものである。この境川については、時間当たりの雨量は50mmという考え方を持っている。

D この調整池が満水になったら、どうなるのか。

市 越流して、直接、下水道管に流れることになる。下水道管は自然流下で流れる構造になっている。

E 調整池の深さは。

市 調整池の箱（躯体）としては、約 7.2m程である。

F 公園の利用方法については、平成 28 年度までは未定ということか。

市 平成 26 年度から皆さんのご意見を聞いていきたいと考えている。その後、平成 27 年度に実施設計を行い、平成 28 年度に工事着手していきたい。以前は、行政で 3 案ほどつくり、皆さんに提示し、計画を決めていたが、今は皆さんと 1 から計画をつくっていくワークショップという形式をとっている。

G 公園は谷戸地形になっているため、非常に暑い。もっと、土を盛ってしまい、盤を上げてしまえば良いのではないか。

市 土を盛ってしまうと、調整池の荷重が耐えられなくなる。コンクリート製の調整池であれば、土をもっと盛り上げることも可能であるが、工事費を試算すると 30~50 億程度かかってしまう。暑さ対策としては、樹木により、風の道をつくるなどして、対応を図ってきたい。

以 上